

2025 年度 水・地域支援事業（ビジネスプランコンテスト）選考結果総評

2025 年度の水・地域支援事業（ビジネスプランコンテスト）への応募は、昨年度と比べ件数において若干下回ったものの、充実度においては上回るものでした。関係者への事業の認知が進んでいるものと思われます。当財団で選考した結果、課題提起・付加価値創造コース（アイデア募集）で 6 件、課題解決・事業化コース（プラン募集）で 2 件を採択いたしました。

課題提起・付加価値創造コース（アイデア募集）の審査にあたっては、本支援事業が意図する水・地域との関わりが明確かという観点を重視したうえで、応募者各位がそのアイデアに込めた価値観は尊重するという方針のもとに審査を行いました。また、すでに実績があるような提案は採択には至りませんでした。最近の傾向として、AI 技術や SNS 情報に依拠することにより問題解決を図ろうとする提案が少なくありませんが、地域の水に関わる問題が的確にとらえられているかという点にも着目しました。

採択されたアイデアは、地域の水の多様な価値を発見し、それを伝え、楽しみ、活かす工夫を通して、人々が地域への興味・関心を喚起する可能性、さらに、関係する人の輪が広がる可能性が感じられるものでした。採択された応募案件 6 件の多くは、個人、小グループからのものでしたが、いずれの採択案件につきましても、今後、本支援事業の「プラン募集」や当財団の研究・活動助成事業への応募が期待できるものと考えられます。

課題解決・事業化コース（プラン募集）への応募は、最終的に 5 件の応募者がプレゼンテーション審査に臨みました。審査の結果、次の 2 団体からの応募を採択しました。

- ① 株式会社アクト
- ② 一般社団法人小さな水

選出にあたっては、本事業の趣旨に照らし、事業の背景と目的、事業計画、事業の実施可能性の三つの視点を重視していますが、採択した両提案は、これらの点で評価できる提案です。

①は、中山間域や被災地での適用性において新規性が認められました。②は、工場廃水処理の設計効率化に資するビジネスモデルが提案されています。

このほか、大学発ベンチャー企業である株式会社うんこ電池からの応募については、学生がビジネスへ踏み出す意欲を評価する選考委員も少なくありませんでしたが、ビジネスモデルとしての熟度を高める余地が必要と判断しました。このため、当財団がビジネス化を後押ししても良いのではないかということから、今後の検討を奨励する意味で、「選考委員特別賞（奨励賞）」を授与することとしました。

昨年度のプラン募集のなかから採択した FUKUSHIMA DINING LABORATORY の「SOBOKU 草木を喫する愉しみを」は、その後「KURAFUTO」へと名を変えて、「和香木研究所 KOBOKU ノンアルコールスパークリング《杉翳（すぎのかげ）》」を発表するなど、着実にビジネスへの道を歩みだしています。この団体は、一昨年アイデア募集での採択からのステップアップに関わることができているということは、当財団にとっての喜びです。

来年度以降も本支援事業を継続し、以上の審査方針で臨んでいきたい所存です。引き続き、水と地域に関して事業化につながる斬新なビジネスアイデア・ビジネスプランの応募をお待ちしております。

公益財団法人 水・地域イノベーション財団